

あの頃の時間を

ドーナツ

ピッピッピッピッピッピッピッピッ。

目覚まし時計が鳴っている。

目覚まし時計を止め、ベットから起き上がった。

年だろうか、体が重い。

私はテーブルに置いてあった、水を手に取り、飲む。

結局、一睡も出来なかった。長い髪を掻き上げる。

テーブルには電源が入ったままのノートPCがある。

”再生医療と万能細胞”と記されているWebサイトが表示されている。

TVの電源を入れた。

私はリモコンでチャンネルを選んだ。

選んだニュース番組では、

宇宙連絡船の奇跡の帰還が報道されていた。

最近、交際中の宇宙飛行士の彼が

前人未到の惑星開拓から、地球に帰ってきた。

だが、まだ彼とは会ってはいない。

何故なら、彼は青年のままなのに、

私は、初老のおばあちゃんになってしまったからだ。

彼は運行中の宇宙嵐で、予定コースから外れ、

地球との時差が数十年も離れてしまった。

ウラシマ効果という現象らしい。

事故なので、

私たちの関係はなかった事になっても、

仕方が無いことなのかもしれない。

だがしかし、

私はどうしても、彼に愛を伝えたい。

なぜなら私は彼に、帰って来るのを待っていると、

約束したからだ。
たしかに、障害がある。

まず、年齢差だ。
もし、なんとかなるのなら、
倍近くも離れてしまった、
この年齢差をなんとかしてしまいたい。

せめて、見た目だけでも思いながら、
私は数十年間、若返りの研究をした。
そこで、万能細胞という技術論文を見つけた。
難しい内容で詳しくは分からないが、
万能細胞を肌に移植する事で、
肌や内臓が若返り、若さを取り戻せるそうだ。
しかし、人体での実験は、まだ行なっていない。

問題はそれだけではない。
知人の話によると、彼に新しい婚約者が現れた。
その婚約者は、惑星開拓を生業とする大企業の娘で、
投資の面でも、彼の仕事を支えることになるらしい。
宇宙空間における遭難の生還は、人類初なので、
彼の生還した経験に目を付けたのだろう。

縁談の話もどうやら、近日中にあるようで、
早めに私という、婚約者がすでにいるという事を
主張しないと、取り返しがつかない。

しかし、私は決して、決して、あきらめない。
やるだけのことはやってみよう。

私は、彼との年齢差を改善するため、
研究所を訪ねた、
そこで研究者の承諾を得る事ができ、
私は見事に若返る事ができた。

ところが、若返りの思わぬ副作用が出た。
触れた生き物を老死させてしまう、体になった。
嘘みたいな話だが、私に注入されたナノロボットの影響が
異状な程に強力で、
他人の生命力旺盛な細胞と、私の死んでしまった細胞を
入れ替える機能が、他人の生命を奪う程に強力なのだそうだ。

奇病の解決方法を探せずにいたが、
彼と資産家の娘の縁談の時期が迫り、
急いで、婚約者と会うことになった。
彼と私の関係について語った。

婚約者は、彼と私が恋人関係にあった事を聞き、
空気が張り詰めた。
私は出来る限り冷静に説得した。
この1時間程に続いた会話は、
「私の彼を愛した時間を無駄にはしたくない。」
の言葉が終止符となったようで、
私の希望通りの要件を受け入れて貰える事になった。
ただし、この奇病を彼の次の出向までに、
完治させなくてはならない。

触れた生き物を老化させてしまう、
この体質をどうにかしなくてはならない。
私は、研究員に精密検査を依頼し、
あらゆる可能性を聞き出した。
そこで、ある植物の毒薬に抑制作用があるという事が分かった。

結果はこうだ。
見事に、私は彼に愛を告白した。
しかし、毒薬の効果が強く、
私は急激に年老いて死んでしまった。
だが、あの頃の姿で彼に触れる事が出来た。

おわり。